

令和6年度 徳島県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通じた指導の充実（授業改善）による児童の発信能力の強化と、校種間連携の質的改善

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①児童の言語活動時間の割合（75%以上）が増加
(R4:39.4→R5:54.8%)
- ②CAN-DOリストの設定
(R4:100%→R5:100%)
- ③英語教育に関する小中連携の実施状況
(R4:100%→R5:100%)
- ④一定の英語力を有する者が増加
新規採用者に占める割合
(R4:19.3%→R5:24.1%)
CEFR B2以上（全体）
(R4:2.5%→R5:4.2%)

未だ改善が必要な点

- ①言語活動の割合（50%以下）が一定割合見られる。
(R4:2.2%→R5:2.2%)
- ②パフォーマンステストの適切な実施
- ③英語の授業におけるICT機器の活用は改善が必要。
デジタル教科書の活用
実施無し（R5新設:25%）
50%未満（33.1%）
発表・やり取りに活用なし
(R4:16.6%→R5:20%)
- ④小中高連携の実施状況
中学校（R4:100%→R5:100%）
（交流R4:40.5%→R5:44.3%）
高校（R4:14.3%→R5:14.3%）

2. 要因分析

- ①において、小学校英語専科教員に対し研修を実施。また、学校訪問や各種研修等において小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施について周知したことで、言語活動の割合が改善したと考えられる。
- ②③については、校種間連携版CAN-DOリストの見直しを毎年求めているため、100%を維持。
- ④新規採用の際の加点措置等もあり、新規採用者における一定の英語力を有する者の割合が増加したと考えられる。

- ①学校訪問等で授業を参観すると、言語活動は行われているが、言語活動を通じた指導については浸透していない。
- ②教科等研究集会において、パフォーマンステストの提出を求めたが、内容を見ると適切に評価できている学校は少ない。ALTの活用（パフォーマンステストの補助等）について、学校、地域間で差が見られる。
- ③デジタル教科書、ICTの活用について有効な活用が浸透していない。また、通信状況や機器等、ハード面について改善が進まなかった。
- ④中学校との連携の内訳を見ると、交流の値は44.3%と低く、互いの指導方法を知る機会等には至っていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底

- ①小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施のため、学校からの要請に対し学校訪問を行う。
- ②③「校種間連携版CAN-DOリスト」の見直し時、授業（教科書単元）や定期テスト等を紐付けしパフォーマンステスト等を提出することを求め、「目標と指導と評価の一体化」を促進する。
- ④・中学校教諭「英語」に出願する者で、小学校教諭の免許状を有する者は小学校教諭を併願可。小学校教諭に出願する者で、文部科学省が示す「一定の英語力」を有する者には、加点15点）及び、第2次審査の実技試験を免除する。
・英語免許状取得の割合を高めるため、中学校英語2種免許状の取得を周知する。（R5から3名が受講中）

①②③

- ・小学校英語専科教員に対し研修を実施。
- ・学校訪問や各種研修等において小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施について周知し、言語活動の割合の改善を図る。
- ・「実践的オンライン研修」の受講を薦める。受講者の学校を指導主事が訪問し、受講者に寄り添った支援を行う。
- ・「指導と評価の一体化」サイトで、引き続きパフォーマンステスト等、評価問題の例を共有するとともに、評価問題作成チェックリスト等を掲載する。
- ・国際交流プロジェクト「Hello to the World」の実施を通して、言語活動を通じた指導、ICTの活用について、改善を図る。また、市町村教育委員会担当者に参加を求め、市町村教育委員会で自走できるように支援する。
- ④小中高連携を踏まえた英語教育リーダーの育成を図る。県外の先進校視察を実施し、県内教員に参加の機会を提供し、授業改善や学習評価の改善について研究し、その成果を県内に広げていく。

令和6年度 徳島県 英語教育改善プラン

目標と指導と評価の一体化を徹底し、言語活動の充実を中心とした授業改善を行う。

CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 55.4%(R5) → 56%(R6)

教師の英語使用量(50%以上) 75.9%(R5) → 85%(R6)

パフォーマンステストの実施状況 (SW両方) 81.9%(R5) → 85%(R6)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①国が求める英語力を有する生徒の割合(CEFR A1)

52.1% → **55.4%**

②CAN-DOリストの設定等

設定 100% → **100%**

公表 100% → **100%**

把握 100% → **100%**

③英語教育に関する小中連携の実施状況

100% → **100%**

未だ改善が必要な点

①言語活動を通じた指導の充実

②パフォーマンステストの実施状況

両方 87.2% → **81.9%**

Sのみ 10.2% → **18.1%**

Wのみ 2.6% → **0%**

無し 0.0% → 0.0%

③小中連携の状況

交流 40.5% → **44.3%**

④全国学力・学習状況調査正答率

領域 聞くこと **57.2**(58.4)

読むこと **49.4**(51.2)

書くこと 25.3(23.4)

観点別 知・技 52.0(51.5)

思・判・表 **37.3**(38.8)

※ ()は全国平均

2. 要因分析

① 4 技能型客観テストを活用した授業改善事業及び英語指導力向上事業を実施。

②③R元より「小中連携版 CAN-DOリスト」作成に向け、地教委への説明及び各学校宛てに「作成の手引き」等を作成し送付。設定・公表・把握についても指導。

①生徒の言語活動割合(50%以上：87.2%→88.8%)は改善したが、教師の英語使用量(50%以上：88.9%→75.9%)や授業作りについての理解が不十分。

②CAN-DOリストでの把握は100%であるが、パフォーマンステスト両方実施は81.9%であり、「指導と評価の一体化」が不十分。

③ICT機器の活用による言語活動を充実させるアイデアの不足。

④各観点に対する理解が十分にできていない状況がありそのことが言語活動にも影響している。

3. 目標を達成するための施策・事業

徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底

①英語4技能育成事業に2年間で県内すべての中学校が参加し、言語活動を通じた指導の充実を図る。

②③「校種間連携版CAN-DOリスト」の見直し時、授業（教科書単元）や定期テストとの紐付けを徹底し、「目標と指導と評価の一体化」を促進する。また、校種間連携型研修会を継続し、学校現場へきめ細かな支援を実施する。

①③イングリッシュキャンプを継続して実施し、参加者の英語力向上を目指すとともに、市町村教育委員会担当者へ企画・運営方法について伝える機会を提供し、より多くの自治体が自走できるように支援する。

①②③④

○県内の英語教員が抱えている授業における課題等を踏まえ、授業における指導事例等を大学教員の助言を受けながら県内教員で作成し、「指導と評価の一体化」サイトに掲載することで全体に共有する。

○教科等研究集会でICTや学習者用デジタル教科書の効果的な活用事例を共有し、授業での活用を促進させる。

○英語4技能育成事業において指導と評価の一体化サイトに掲載されている評価問題例等を活用しながら研修を行い、観点への理解を深めるとともに指導と評価の一体化を図る。

○小中高連携を踏まえた英語教育リーダーの育成を図る。県外の先進校視察を実施し、県内教員に参加の機会を提供し、授業改善や学習評価の改善について研究し、その成果を県内に広げていく。

令和6年度 徳島県 英語教育改善プラン

目標と指導と評価の一体化を促進して、言語活動のさらなる充実を図る。

生徒の英語による言語活動の割合 67.7%(R5)→72%(R6) 教師の英語使用量(50%以上) 55.2%(R5)→56%(R6)
 CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 55.1%(R5)→57%(R6)
 CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 24.3%(R5)→26%(R6)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語による言語活動時間の状況 62.9%→**67.7%**
- ②生徒の英語力
 - ・CEFR A2相当以上 R4:50.0%→R5:**55.1%**
 - ・CEFR B1相当以上 R4:20.6%→R5:**24.3%**
- ③CAN-DOリストの把握
 - ・設定 (R4:100%→R5:100%)
 - ・公表 (R4:94.7%→R5:86.8%)
 - ・把握 (R4:73.7%→R5:**94.7%**)
- ④CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 R4:93.8%→R5:**94.3%**

未だ改善が必要な点

- ①授業における英語担当教員の英語使用状況 R4:60.5%→R5:**55.2%**
- ②パフォーマンステスト（スピーキング及びライティング）の実施状況 **両方実施** 59.5%→**59.4%**
- ③CEFR C1レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 R4:19.1%→R5:**16.4%**
- ④小中との連携の実施割合
 - ・小学校R4:14.3%→R5:14.3%
 - ・中学校R4:35.7%→**R5:28.6%**

2. 要因分析

- ①②→(1)ICTを効果的に取り入れた英語教育の実践(2)充実した言語活動をともなう授業実践(3)学習評価問題の作成と評価の仕方について、学校悉皆の授業研究会を実施したことで、言語活動中心の授業に向けた指導と評価が改善。
- ②③→「指導と評価の一体化」サイト作成委員会を継続し、作成した評価問題について共有。
- ③④年度当初の英語科主任会や教育課程研究集会、学校訪問等で、英語教育実施状況調査の県の状況を説明しながら、CAN-DOリストの改善及び評価の必要性について説明。教員の英語力及び指導力向上に役立つ研修等を紹介。

- ①について、「論理表現」における授業での英語使用状況の割合が低いことが要因の一つであると考えられる。
- ①②について、「生徒の英語による言語活動の割合」が少ない学校では、教員の英語使用及びパフォーマンステストの実施状況の数値が低く、相関性が見られる。
- ③④について、研究会後に実施する英語科教諭のアンケートを見ると、日々の業務が多忙化しており、自己研鑽や小中連携のための時間確保が難しい状況が視える。

3. 目標を達成するための施策・事業

徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底

①②③④英語指導力向上を目指した研修・研究会を継続実施→目標と指導と評価の一体化と、言語活動あふれる授業づくりを推進するための研修・研究会を引き続き実施する。

- ①②
 - 昨年度作成したデジタルコンテンツの教材等を使用し、単元目標達成に向けた効果的な言語活動のあり方について理解を深め、言語活動の充実に向けた授業を行うために、マイクロティーチング等を取り入れた実践的な研究会を実施する。
 - 昨年度実施した「グローバルに活躍する生徒の育成をめざした英語指導力向上事業」の内容を県内で共有する。
 - 「指導と評価の一体化」サイトで、優れた授業実践やパフォーマンステストの事例を共有し、評価問題作成チェックリスト等も掲載する。
 - 教員の英語使用やパフォーマンステストの実施状況の低い学校には、学校訪問の機会を利用して、英語使用及びパフォーマンステストの実施状況を改善していくよう指導助言を行う。
 - 実践的オンライン研修の参加を促し、参加者一人一人の課題を共有し、指導助言を行う。
- ③
 - 英語教員が英語力をブラッシュアップするための研究会を実施する等、自己研鑽のための機会や情報提供の場を設ける。
 - 外国語学会やディベート研究会を活性化し、英語科教員が日頃の悩みを相談したり、自己の英語力を高めるための仲間、ネットワークづくりを行う。
- ④小中高連携を踏まえた英語教育リーダーの育成を図る。県外の先進校視察を実施し、県内教員に参加の機会を提供し、授業改善や学習評価の改善について研究し、その成果を県内に広げていく。

徳島県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	59	55.1	57		58		59		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	22	24.3	26		28		29		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	67.7	72		74		76		78		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	65	59.4	60		62		64		66		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	86.8	90		92		94		96	
		達成状況の把握(%)	85	94.7	96		98		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	94	94.3	95		96		97		98			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	78	55.2	56		58		60		62			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	54	55.4	56		58		59		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	93	88.8	93		94		95		98		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	81.9	85		87		88		90		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	66	63.4	66		67		68		70		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	94	75.9	85		86		88		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値								
小学校	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 公表(%)	100	95	100		100		100		100	
	達成状況の把握(%)	100	99	100		100		100		100	